

第1回千葉県食育推進県民協議会（H18.12.26開催）における意見（要旨）

〈主な意見〉

- 健康、長生き、そして充実した人生を送れる人間づくりというのが最終的なテーマで、それぞれのライフステージで、それぞれの団体が同じ目標を持って活動していくものと捉えている。（上野委員）
- 1つの大きな共通のテーマを掲げながら、健康づくりの部分は健康福祉部が担い、子どもの教育の部分を教育庁が担い、取りまとめを農林水産部が担当するというように理解している。（遠藤委員）
- 食の問題は、色々な切り口があるが、行政の縦割的なものをなるべく排除し、横断的に取り組む必要がある。（赤坂委員）
- 食を通じた「心と体の健康づくり」を基本に食育を考える必要があり、特に、社会情勢の変化により、食生活の乱れが子どもの健康に影響を及ぼす中、次世代を担う子どもの保健の問題を取り上げていくことが必要である。
育児の根本である家庭の機能が低下し、支援の分散化により学校保健の重要性が増す中、総合的にどのように食育に取り組むかが大事である。
日本的な食の崩壊を振り返り、日本的な食生活の見直しや子どもの咀嚼の問題などを含め、もう一度もとに帰ることが必要である。また、幼児期の味覚教育が重要であり、地域の食材を使いながら、しっかり経験させ感じさせることが基本である。（赤坂委員）
- 食生活指針ガイドなど、基本となるものを中心にすえ、総論的なものは、国、県、市町村が共通したものとし、各論の部分で千葉県の特有な問題点や地域性を出していくことが必要である。（赤坂委員）
- 食育は、1つは健康、もう一つは、しつけがあると思う。また、食育を考えていく場合、家庭だけとか、地域社会だけとか、これは学校の仕事だとかというのではなく、食料自給率が低くなる中での生産者の立場も踏まえ、食育というものをグローバルに考えてもらいたい。（菊間委員）
- 食育の視点として、①健康を保持するため、健康長寿のための食育、②疾病を予防するための食育、③既に病気になってしまった人の食育、これらをどうしていくかが重要。生き生き元気でいくために食育をどうしたらいいかにテーマに絞っていくのがよいのではないか。（本吉委員）

- 食育について、それぞれが何をし、何が問題で課題なのかを整理し、その状況を話し合い、共通認識を持って議論し合うことが大事である。(小嶋委員)
- 千葉県の食育と大上段に構えるのではなく、個人個人が地域の方々と話をしながら実績を積み上げていくことが大事である。家庭、PTA、保育所、小学校、中学校と段階を踏みながら、話をしながら、日本食を大事にした食育を草の根でやっていくことが一番いいと思い取り組んでいる。(大木委員)
- 最近の若者は、健康に対しての危機感がなく、健康長寿、生きるということに対する認識が違うということを踏まえ検討する必要がある。(水永委員)
- 県民の注意を喚起しやすくするためには、おもしろおかしく食育を進めるなど新しい視点での取組も必要である。千葉県らしさをうまく取り込んだ、色々な団体や職種の人がコラボレートできるような企画も考えてもらいたい。(松田(一)委員)
- 食育においては、千葉県が農業県であり生産県であることを念頭に、食と農の教育、食と農が育む精神を大切にしたい。また、食品残渣の資源リサイクルへの取組や千産千消への取組も必要である。千葉らしさにこだわると、千葉のブランドづくりの取組もある。(松田(延)委員)
- 学校での体験は非常に重要だが、すべての学校で体験学習を実施するには、学校の年間計画の中にきちんと位置づける必要がある。また、地域の方々の協力の下に継続的に実施していくためには、学校側の受け入れ態勢や費用の問題などへのバックアップも考慮しながら進めていく必要がある。(上野委員)
- 千葉県は、人口が多く、平均年齢も若く、将来を担う人材が多く生活をしている県であるという特徴を踏まえ、少子化が進む中で、人が育つ、人を育てるという視点を計画に盛り込んでもらいたい。
貴重な人材は子ども達なので、郷土を愛し、千葉県に住み、千葉県のために生きていくという人材が育成されればいいと思う。
健康づくりと体づくりだけでなく、心を育てることを加え、人を育てるという視点で計画づくりをお願いしたい。(鈴木(美)委員)
- 食育の推進についての戦略のコンセプト、共有化する一つのコンセプトと具体的な目標を持たないと活動しにくい。
「ちば2006アクションプラン」を例にとると、「健康づくりふるさと千葉構想」、「みんなで作る新しい地域社会」が推進する戦略コンセプトで、千葉経済の活性化、観光立

県千葉の実現、千葉ブランドの確立が実現のための具体的な戦略となる。

いかに県民（おじいちゃんから赤ちゃんまで）にわかりやすい言葉で伝えていくかが一番大切である。（寺島委員）

○千葉の問題点というのは事実何があるのか、千葉のいいところはどこなのか、千葉にはこんな特徴があったということについて、もう一度、簡単な事実から再認識し、一般の人へ発信し、みんなで共有化しないと問題点は見えてこない。その問題点を解決するための目標を、きっちり設定していくことが必要である。（寺島委員）

○各々の立場で食育に取り組んでいるが、課題は、これらの取組をどう融合させ、運動を推進するためのパワフルな組織にできるかであり、この協議会を通じ、コンセプト実現のため、横串を刺し、組織や異業種を水平統合する仕組みを千葉でつくり上げ、全国に発信できる千葉のすばらしい取組として実現できればと思う。（寺島委員）

○千葉県には、野菜も肉も魚もすべていいものがある、千葉で育てていることを県民にわかしてもらい、食べてもらうというところがポイントである。心の問題もうまく取り入れながら、具体的な、本当にできることをお互いに色々な視点に立って考えて計画づくりをしていくのがよいと思う。（渡邊委員）

○学校では、給食や農業体験などで地域の特性や実情に応じ様々な取組がなされているが、そうした取組を地域の団体がそれぞれ協力するような体制が円滑にできると、非常に効果的なものになる。

また、食に関しては、小学校に上がる前の幼児期が非常に重要であり、保育所や幼稚園でもう少し食に関しての関心を親子に持ってもらえるような環境づくりができればよいと思う。

子どもが生まれて健康や子どもの食について関心がある時期に健康教育に引き込むことが重要で、幼児期の子と親の食育を計画の中で考えていく必要がある。（上野委員）

○国では、食育の日である 6 月 19 日の他、毎月 19 日に重点的に食育推進の普及活動を展開している。千葉県でも、普段あまり関心を持たない、より多くの県民に浸透させるために、何か良い方法を見つけていただきたい。（鈴木（静）委員）

○色々な食育への取組がある中で、共通の目標を一つ定めていく必要がある。大きな目標として県民の心とからだの健康を築こうということを中心に据え、目標を実現するための姿とし、子ども達や大人が食を選ぶ力を高めていくための取組と、安全、安心な食材や食品、特に旬のもの、新鮮なものを提供していく取組を共通目標としてはどうか。（寒川委員）

○千産千消への取組では、千葉の素材が近くで手に入る小回りのきく千葉らしい流通形態を取り入れてもらいたい。(鎌田委員)

○農業体験は、実際に経験する子ども達だけでなく、子ども達の姿を通し、受け入れる側にとっても良さを実感する取組であり、推進計画の中で大きく取り上げてもらいたい。(飯田委員)

〈取りまとめ〉

○食育推進計画の方向性としては、まず、「心と体の健康づくり」を目指すこと。2つ目に、千葉でつくって千葉で消費する「千産千消」を今一度、食育の中でそれぞれの部局で見直していくこと。3番目に、原点に戻る。日本の食生活、生活習慣の良さをもう一度見直し、原点に立ち返ること。

大きくこれらの観点で、今後は、修正を含め作業部会で具体的な検討をお願いしたい。(明石会長)